

## 第50回与謝野町地域公共交通会議 会議報告書

■日 時 令和7年6月20日（金）午後2時00分から午後2時55分まで

■場 所 岩滝保健センター2階 会議室1・2

### ■出席者

|       |        |       |       |       |
|-------|--------|-------|-------|-------|
| 山添 藤真 | 大西 健二郎 | 糸井 康裕 | 宇野 賢一 | 西村 良久 |
| 池本 久男 | 小澤 靖夫  | 河邊 時寛 | 渋谷 卓司 | 山添 雅男 |
| 安達 幸三 | 小室 誠治  | 野田 寿宏 | 柴山 進  | 辻 圭   |
| 福井 誠  | 中西 則之  | 矢野 彰男 |       |       |
|       |        |       |       |       |

### ■オンライン出席

井上 学

### ■代理出席者

白木 智章

### ■欠席者

井崎 智満 川本 康博 市田 桂一

### ■事務局

|         |         |         |         |          |
|---------|---------|---------|---------|----------|
| 山口 企財課長 | 大江 企財主幹 | 松本 企財係長 | 本田 企財主査 | 小池 企財主事補 |
| 下川 福祉主査 |         |         |         |          |

### 会議の要点

○副会長は龍谷大学文化学科の井上教授に選任された。

#### 【報告案件】

○丹海バス路線の令和6年度の運行実績について、事務局から資料のとおり報告。丹海バス小室委員から4月以降の福知山線、峰山四辻線を廃止し、与謝線、峰山線の再編後の状況について報告があった。

○よさの乗合交通の令和6年度の運行実績を事務局から資料のとおり報告。

○社会福祉協議会の山添委員から福祉有償運送事業の令和6年度の運行実績について資料のとおり報告があった。

○令和8年度地域間幹線系統確保維持計画の策定について、事務局から京都府北部地域連携都市圏公共交通活性化協議会で承認された内容を報告。

#### 【協議案件】

○令和8年度地域内フィーダー系統確保維持計画の策定について、事務局から資料のとおり説明。目標値の設定について、また提出資料に修正が発生した際にも事務局に一任する内容で承認された。

### ■会議内容

- 1 開会  
配付資料の確認、出席状況の報告
2. 会長あいさつ（割愛）

### 3. 副会長の選任について

○会 長：

最初に、次第の副会長の選任について、設置要綱第4条第3項の規定により、委員の皆様方の中から会長が指名することとしており、私からご提案を申し上げたい。

本会議は、地域住民、利用者により便利な公共交通を構築していくことが重要。これまで本町の地域公共交通に関し、様々な知見からご意見をいただいている龍谷大学文化学科教授の井上様へ副会長にご就任をいただきたいが、委員の皆様いかがでしょうか。

<異議なし>の声

○会 長：

それでは異議なしということで、副会長として井上先生にご協力をいただきたいと思いますと思うので、よろしくをお願いします。

### 4. 議題

#### 【報告案件】

#### (1) 令和6年度運行実績報告について

- ・丹海バスの実績報告について (R5. 10. 1~R6. 9. 30)

(伊根線、蒲入線、与謝線、峰山線、福知山線、峰山四辻線)

- ・よさの乗合交通の運行実績について
- ・福祉有償運送の事業報告について (R6. 4. 1~R7. 3. 31)

○事務局から資料1について説明。

- ・丹海バスの乗車人数・運送収入実績について、当該年度の10月1日から翌年の9月30日までの1年間を1年度とするバス年度での経年比較で実績報告としている。
- ・1枚目は幹線系統(伊根線、蒲入線、与謝線、峰山線)の4路線の実績報告。国の地域間幹線系統補助金の申請路線を記載。
- ・2枚目は枝線(福知山線、峰山四辻線)の2路線の実績報告。市町がそれぞれが単独で補助をする、いわゆる国、府補助を受けない路線や、国の地域間フィーダー系統路線という地域間幹線系統補助金とは別の補助路線を記載。
- ・丹海バス路線全路線の令和6年度乗車人員数は、昨年度実績との対比で約1.08倍。運賃収入は昨年度対比で約1.14倍となった。伊根線、蒲入線はインバウンド需要による増加という要因により大きく好調である一方で、与謝線、峰山線は学生の通学利用や地元利用者による買い物や通院を目的として利用される路線であり、ここ数年は利用者が減少傾向にある。また、福知山線、峰山四辻線については再編以降、利用者が減少傾向にあり、令和6年6月に減便し、令和7年3月末をもって廃止となった。

○事務局から資料2について説明。

- ・よさの乗合交通の令和6年度実績報告。1枚目は会計年度、令和6年4月から令和7年3月までの1年間の運行実績をまとめたもの。2枚目はバス年度実績で、令和6年10月から令和7年5月までの8ヶ月分の運行実績をまとめたもの。
- ・1枚目と2枚目で数字が大きく変わった点はあまり見受けられないが、特筆するところとして、運行経費が2枚目は10月までにかかった導入経費が差し引かれているという点と、8ヶ月分の運行経費で計算しているので、見かけ上大きく落ち込んだように見える。利用者数のこの1人当たりの公的資金投入額が7,188円ということで、残りこの4ヶ月の利用においてどこまで数字を圧縮していけるかが課題。
- ・3枚目は令和6年4月から3月までの年間利用者数の月別推移。概ねエリア全体の合計利用者数が約200人を超える実績となった。4枚目は運賃収入収支率。利用者数に応じて推移している。

○社会福祉協議会の山添委員から資料3について説明。

- ・福祉有償運送事業は令和6年度実績(令和6年4月から令和7年3月31日までの実績)を報告。
- ・福祉有償運送の必要性について、身体的理由等により公共交通機関を利用することが困難な在宅の高齢者や障害者を対象に、医療機関への通院等の利便を図ることを目的に実施する事業であり、少子高齢化の進展により対象者が抱える困り事の中で、移動手段の確保が上位を占める中、年々利用、利用回数等を増加傾向にあり、本事業の対象者である要介護要支援者障害をお持ちの方々には欠かすことができない事業となっている。
- ・登録会員の状況。令和6年度登録者数は260名、令和5年度は259名。1名の増加。

- ・令和6年度の実績報告。登録者数、延べ利用者数、運行規模等については前年度比較ができるものとなっている。加悦・岩滝地域は、ほとんどの項目で減少しているが、野田川地域の増加が大きかったため、トータルでは増加となった。利用回数では令和5年度実績が3,734回、令和6年度実績が3,848回となり、114回の増加となった。これについても、野田川地域の増加が大きかったため、トータルでは増加となった。長距離利用者状況については、距離29.3キロが最長利用で、経路は岩屋から久美浜病院へ片道利用料は3400円となった。

## ■主な意見

### ○小室委員：

この3月で福知山線と峰山四辻線が廃止となり、4月以降の情報について報告する。まず峰山線は峰山四辻線の廃止に伴い、宮津天橋高校加悦谷学舎まで延伸して、加悦谷学舎を出発し、野田川丹海を経由して峰山に向かう経路に再編した。高校の登下校に合わせて朝便は野田川丹海から、夕方の便は峰山からそれぞれ連車対応、つまりは2台目を走らせることで運行している。4月の新学期が始まり、当該路線では乗り切れない事象、与謝野町内の利用者は1台で足りるが、京丹後市内、大宮以降の利用者が増え、乗りきれない事象が発生したため、直ちに2台目を出して対応しており、これも継続して対応している。延伸区間においても一定の利用がある状況。峰山四辻線の廃止となり、利用者には不便をかけている状況ではあるが、ある程度は峰山線でカバーできていると考えている。

続いて福知山線の廃止に伴い、これまでの利用者が、与謝野駅まで鉄道を利用して移動が出来るように福知山へ向かう方、または福知山から帰られる方の移動手段として利用できるように与謝線を改善したところ。朝の与謝発6時台の利用者は数名ではあるが、新年度になり、福知山の高校へ通う学生が利用されていることを確認している。また、これまで福知山線を利用して通勤されていた方も、鉄道へ乗り換えて、引き続き与謝野駅まで通勤されている方がいることを確認している。新設した夕方の便、天橋立ケーブル下から与謝野駅を経由して与謝へ行くが、今のところ数名程度の利用で少ない状況。これからも利用状況をしっかり見て今後のダイヤ改正等に反映していきたい。またこの再編とは関係ないが与謝線についてはやはり通学の利用が多く、宮津天橋高校加悦谷学舎へ通学する学生は、与謝野駅から2台目を出して対応していくという状況。

## (2) 令和8年度地域間幹線系統確保維持計画の策定について (R7.10.1~R8.9.30)

### ○事務局から[資料4]を説明。

- ・令和8年度地域間幹線系統補助金の国の補助金申請の書類一式について概要説明。
- ・伊根線、蒲入線、与謝線、峰山線その他4路線を含む幹線系統について、京都府北部連携都市圏公共交通活性化協議会で事業計画を策定し国へ申請することとしており、本協議会の総会が6月17日に開催され、内容について承認を受けた。
- ・協議会と本町の地域公共交通会議の関係は、地域公共交通会議が協議会の分科会の位置づけとなっている。本来であれば、6月17日の総会開催前に分科会で内容を承認し、総会にかける必要があるが、交通会議の日程の都合が合わなかったため、事後報告となったことを委員の皆様にはご了承いただきたい。
- ・2枚目には令和8年度事業分の申請内容が記載されており、京都府北部圏域を運行するバス事業者、京都交通と丹後海陸交通の路線を合わせて申請する。運行にかかる費用は82,456千円、車両購入に係る減価償却費が26,118千円を国に申請する。

### ○会 長：

ただいま事務局からは6月17日に開催された京都府北部地域連携都市圏公共交通活性化協議会総会において承認された、令和8年度地域間幹線系統確保維持計画について報告があった。これについては本地域公共交通会議が活性化協議会の分科会の位置づけられており、上位計画である本計画が承認されたということで報告があったもの。

ただいま事務局からあった地域間幹線系統確保維持計画の策定の件について、皆様方からご意見などがあればお受けしたいが、いかがでしょうか。

特にないようであれば、議事(2)令和8年度地域間幹線系統確保維持計画の策定についても、ご理解をいただいたものとする。

## 【協議案件】

## (3) 令和8年度地域内フィーダー系統確保維持計画の策定について (R7.10.1~R8.9.30)

○事務局より資料5について説明。

- ・地域内フィーダー系統確保維持計画に係る国への提案資料一式。
- ・地域間幹線系統から離れた地域に走る路線、令和8年度からよさの乗合交通の路線のみとなるが、運行に係る費用の支援を国に提出するもの。
- ・別紙の2、地域公共交通確保維持事業定量的な目標効果について事業目標、予約型乗合交通（よさの乗合交通）の全体利用者数延べ人数が3,210人と設定している。
- ・与謝野町地域公共交通計画に記載をしており、計画の39頁において、各評価項目の現況と目標値、地域内交通の令和8年度目標の利用者数から目標値を根拠としている。
- ・その他の申請書類の提出ということであり、今後、修正が発生した場合には、事務的な内容となるため、事務局に一任いただきたい。以上、2点について、皆様にご審議いただきたい。

#### ■主な意見

特段の意見なし

## 5. その他

学識経験者の井上先生と京都運輸支局大西専門官から感想や意見をいただく。また、全体を通して、委員のご報告や事務局からの報告を行った。

○井上先生：

本日はありがとうございます。毎回適切なデータの見える化をしていただき、この近畿管内の自治体の中では大変いい資料を作成されている。大変分かりやすいので、この数字を見ながら今後どうあるべきかというところをもう少し深めていければと思う。

まず1点目は運転手をどのように確保していくかという課題。地域ならびに自治体だけではなく、このエリア全体で一丸となって、バスやタクシーの運転手をみんなで見つけて何とか維持していくことが大事だと思われる。今後、鉄道なども関わってくるので、移動に関する担い手というものを、長い目でみんなで支えていくことを目標にできると幸いです。また今回冒頭で会長も発言されたように、幹線として成り立つところはバス、そうでないところは地域でみんなで支えていくことが必要で、これも他の運転手が必要となる。誰かが運転してくれるのではなく、誰に運転いただくかということ的前提に動いていければと思う。

次に、バスは非常によい状況で走っていて、多少混雑も出てきているが、それでも収入が上がらない状況。少しでも収入が上がることをみんなで検討いただければ大変嬉しく思う。

最後によさの乗合交通について、まだ始まったばかり。なかなか数字が伸びないところは歯痒いかもしれないが、体験会を少しでも増やして、ぜひ一度みんながアプリで予約いただき、乗車体験をすることで、利用者の今後の継続的な増加に繋がると思う。口コミで委員の皆様が広められることも大事であり、できるだけ体験できる機会を設けてほしい。

○会 長：

ただいま井上先生から3点にわたり、公共交通の体系的な維持をしていくために重要な視点を承ったものと認識した。それぞれ皆様方と共有させていただき、今後事務局とともに不断の努力をしていかなければならないということを改めて感じたところ。

本日は、京都運輸支局の大西専門官にも御出席をいただいているので、ご助言をいただければと思うので、よろしくをお願いします。

○大西委員：

まず初めに昨年12月に国土交通大臣がよさの乗合交通の視察に訪れたが、休日にも関わらず各関係者の皆様にはご協力いただき、誠にありがとうございました。この場をお借りして感謝を申し上げる。

また日頃より運転手不足によるバス路線の再編、交通事業者におかれましては厳しい経営状況である中、行政機関を含め、様々な形で交通事業者を支えていただき、大変感謝申し上げます。

本日の会議では、丹海バス、よさの乗合交通、福祉有償運送の運行実績等について報告いただき、よさの乗合交通については、昨年10月より本格運行を開始して8ヶ月ほど経ちますが、徐々に浸透しつつあると思う。先ほど井上先生からも話がありましたように無料体験会等やっていたことによって、徐々に浸透していくと感じている。引き続き、皆様連携していただきご協力いただきたい。

最後に補助金の関係で本日の協議報告にあったとおり、幹線バスの維持がフィーダー系統の維持にも繋がる。まずは乗合バスを利用することで維持すること、なおかつ乗合交通の発展に繋げていくということが国の施策であるため、この辺りもご理解いただき、今後ともご協力いただきたい。

○会 長：

大西委員ありがとうございました。それでは出席者の皆さんに全体を通じて、あるいは今の2人の御発言に対して質問や意見があればいかがでしょうか。

○委 員：

利用者からの声として、乗合交通の時間を予約しても場所によっては、早めに到着しても座る場所がない、日よけがないなど待合環境がよくない場所もある。早く着いても待つことがしんどい、一方で時間ギリギリの到着もどうかと思う。また、これから暑くなる時期でもあり、何か対策を考えてもらえないかどうかという声があったので、この場で報告させていただく。

○会 長：

ありがとうございました。乗合交通を利用される方の待合環境の充実ということだったが、これについて事務局から回答をお願いします。

○事務局：

貴重なご意見ありがとうございます。乗合交通の乗降場所については、バス停とは異なる形で数多く設置しているため、一つ一つ今すぐ対応できないというところはあるが、一度その具体的な場所を聞かせていただき、対応ができることがあれば検討したい。また先ほどのようなご意見が、乗合交通に限らずバスも含めて、待合環境の充実を図ることに繋がる。そういった声をお手数ですが役場まで届けていただけると大変ありがたい。

○会 長：

ありがとうございました。その他の委員の皆様、いかがでしょうか。

○事務局：

乗合交通の市街地エリアAにあるNo. 703 にしがきNマート加悦店という乗降場所がある。5月11日をもって閉店したことに伴い、にしがきの営業部より乗降場所から外してほしいとの話があり、この翌日5月12日からアプリ予約や電話予約の際に、コールセンターでも利用ができないようにしている。周知も行うので、委員の皆さんにもご承知おきいただきたい。

○会 長：

その他よろしいでしょうか。それでは本日の議題につきまして、皆様方のご協力により終了とさせていただきます。皆様方には議事の進行にご協力をいただき誠にありがとうございました。それではこの後の進行については事務局にお返す。

○事務局：

委員の皆様には長時間にわたり熱心にご協議いただきありがとうございました。次回の地域公共交通会議の開催は8月の開催を予定しており、詳細が決まり次第、ご連絡させていただく。以上をもちまして、第50回与謝野町地域公共交通会議を閉会とする。

以上